

区民の良識と英知で 明日の杉並区を築こう！

— どうする明日の杉並 —

今、杉並の明日が見えてこない。

急速に進行する少子化、コロナ後の大きく変わった人々の暮らし方、
人手不足、そして能登半島地震が突き付けた待ったなしの防災対策、

こうした中、現区政は、「対話と参加」を掲げるのみで、
福祉やまちづくりなどの課題は事実上のストップ状態。

区政の何が問題で、あるべき姿とは何かを一緒に考えましょう。

杉並を良くする会

これでいいのか杉並区政

現区政に変わってやがて2年。今、杉並区政には多くの問題が山積しています。現在起きている問題点や矛盾を見てみましょう。

① 安全・安心

区民の命を守る安全・安心が置き去りにされています。能登半島地震を教訓に今必要な防災対策は何か。区政の最重要課題に対して岸本区政は何ら新しい対策を示していません。

■ 区長の危機管理意識ゼロ！？

昨年6月2日、台風2号で国から「命を守る行動を！」と呼びかけられていた時に、台風通過のピークが深夜で河川氾濫が予測される中、区長は公用車で午後7時に帰宅。

■ 関東大震災100年なのに広報の全戸配布は、防災よりLGBT

■ 広報で能登半島地震への区長自身のメッセージもない

他の区では区長自ら広報でメッセージを出していますが、杉並区では3月末現在、区長自らの呼びかけは出されていません。東日本大震災の際は、田中区長自ら南相馬支援に区民と一緒に取り組んだことと比べると大きな違いです。



② 少子化・子育て

出産から保育・学童・教育の切れ目のない子育てプランがないままにやがて2年。少子化対策は、喫緊の課題ですが、自ら喧伝した児童館廃止反対のキャンペーンに終始し、何ら新しい政策は打ち出されていません。



③ 介護福祉

介護福祉の後退が深刻です。前区政で特養1,000床増設したにもかかわらず、人手不足で運営に支障が出ています。また介護保険の認定通知は、申請から30日以内が原則ですが、昨年11月時点で約9割が1か月以上、約2割が2か月以上の遅延となっています。



④ まちづくり

前区政が進めてきたまちづくりを「プロセスが不透明」、「住民合意がない」、「タワーマンションを計画」などのデマをばらまき、地域の中に「新たな分断」を持ち込み、この1年半、「まちづくりを振り返る会」などを開催して前区政の検証はしたものの、結局この1月、岸本区長自ら阿佐ヶ谷駅北東地区まちづくりは、計画通りに実施すると記者会見する始末。各地域のまちづくりの課題も何ら具体化されずストップ状態に。

⑤ 産業・暮らし

アフターコロナ、DX、人手不足、事業継承など新たな時代へ対応した産業政策が求められているにもかかわらず、その内容はゼロに等しい状態です。むしろ、実績ある区内事業者やNPOなどを区施設の指定管理事業者から切り捨てる事案さえ発生しています。



▲ 区民のNPOが運営してきた「すぎなみ詩歌館」

⑥ 教育・文化

選挙対策の給食費無償化のみで子どもの安全は教育委員会任せ、この間、重大な事故がいくつも発生しています。

■ 令和5年5月

区立荻窪小校庭のラインマーカーの釘による児童の事故

■ 令和5年11月

学校給食で提供した食材からカビ毒が検出され自主回収

■ 令和6年2月・3月

区立第九小、桃井第四小で児童の水筒に塩素系液体混入事件

⑦ 行政・区政運営

公約を撤回しても謝罪より前区政に責任転嫁、「中立・公平」な行政の場が区長と支持勢力の政治活動の場になっています。

■ 原稿棒読み — 大事な質問ほど役人任せの答弁

■ 区長選挙の主張を反故にしても、一切自ら説明責任を果たさず

■ コロナが終わったのに成人式では国歌は演奏のみ

■ 区のHPや文書に区長の公約「さとこビジョン」の達成度、区長との対話集会を「さとこプレスト」と呼称。

■ 区長記者会見に自らの支持勢力のフリーランスや「赤旗」の記者が登場、一般紙の質問は激減。

■ 多発する不祥事 — 昨年の報道機関への情報提供29件のうち13件

区民の評価は大きく低下

情報伝達度は10ポイント以上低下 [令和5年(2023年)区民意向調査]

前区政に比べ、区の情報伝達度、情報の透明性、公開度が大きく後退、1年で10ポイントも低下したことはこれまでもありません。多くの区民は冷静に判断しています。

令和4年(2022年)5月 令和5年(2023年)5月

● 情報が伝わっている	59.9%	→	49.4%
● 伝わらないことが多い	15.1%	→	19.3%
● まったく伝わっていない	6.6%	→	10.5%
● わからない	17.2%	→	19.8%

明日の杉並区を築く

時代の変化に対応した明日の杉並を皆さんと共に
力を合わせて築いていきましょう！

防災

区民の安全・安心の防災対策の推進 — 能登半島地震から学ぶもの

地震対策

- 「災害は必ずやってくる。」— 能登半島地震を教訓に緊急に対応
- ・都市計画道路、狭隘道路の整備、無電柱化の促進
 - 耐震不燃化の促進、感震ブレーカーの普及
 - ・災害時避難所整備・安心の避難備品のパッケージ化
 - ・防災復旧プラン(電気・ガス・水道)の見える化、電源と水(病院等で地下水)の確保

水害対策

- ・善福寺川上流域の治水対策の推進
- ・環七地下調整値の排水機能の強化



少子化

切れ目のない少子化対策で子育て先進自治体を築く

保育園

- ・保育事業者への支援を強化して保育内容を充実



子育て

- ・就学前からの切れ目のない子育て環境を整備
- ※「児童館再編」は子育てプラザ、学童保育の定員増、放課後の子どもの居場所とセットの施策—「児童館をつぶして子供の居場所を奪う」は真っ赤なウソ！

少子化対策

- ・出産一時金の大幅増額、晩婚、晩産化への対策

子ども

- ・ヤングケアラーを支える仕組みの充実
- ・子どもの貧困対策を推進

障害者

- ・「親亡き後」の障がい者の生活支援

介護福祉

福祉人材を確保し安心の介護福祉を

福祉人材の育成・確保で特養ホーム待機者ゼロの継続を

- 田中区政は、10年で特養1,000床増設し、待機者は大幅減少したものの、人材不足で稼働率が低下、杉並区で働く福祉人材の育成は重要課題です。区独自の福祉人材確保対策—「(仮称)杉並介護福祉専門学校」の設立や交流自治体との連携による人材確保などを検討。
- ・育成から就職、住居手当等のバックアップ



▲田中区政で整備した特養ホーム「フェニックス杉並」

まちづくり

まちづくりを推進し、快適で利便性に富んだ杉並区を

幹線道路の整備は百年の計

- ・駅前整備—駅前が街の顔。これからの都市は、駅前で差がつく。災害時の道路の大切さは、能登半島地震の教訓です。
- ・「何十年前の計画に縛られることはない」は暴論—中杉通りの整備は何十年もかかってまだその途上ですが、この通りがなくてよいのでしょうか。都市の利益や利便性には分かち合いの精神が必要です。将来世代のために現在の世代が負うべき責任は何か。それを考えない議論は単なる住民エゴです。災害に強く、安全・安心して暮らせるために道路の整備は不可欠な課題です。
- ・高齢者や障がい者が安心して移動できるまちの整備



阿佐ヶ谷駅北東地区
まちづくり河北総合病院完成図



各地域のまちづくりを推進し、暮らしやすさを向上

各地域のまちづくりを推進し、利便性と安全性の高い地域社会を実現しよう。

高円寺

都市計画道路補助221号線の整備



阿佐谷

北東地区の整備、中杉通りの延伸



荻窪

駅前整備



西荻

都市計画道路補助132号線の整備



井草

西武新宿線の立体化



浜田山・高井戸

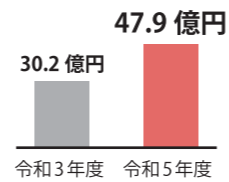
浜田山駅南口の開設、高井戸IC(下り)の開設



産業・暮らし

都心部に隣接した杉並区の地の利を活かした産業政策にチャレンジ

- DX、教育、若い世代のスタートアップ事業の支援
 - インフレ、人手不足対策で商店街を活性化
 - 区内事業者やNPO等の育成・支援
 - 都市農業振興の促進
- ふるさと納税対策で税収減に対応
※なんとふるさと納税の減収は令和3年度30.2億円が令和5年度47.9億円に！
(現区政は何の手立ても講じていません！)



環境

カタチだけの環境政策でなく、杉並らしい地に着いた環境政策を

(本庁舎は、自然エネルギーで賄うという内実は、自然エネルギーの電力購入というカタチの見せかけ—令和6年度予算)

杉並ならではの環境政策を

- 高井戸清掃工場の熱エネルギーの活用
- 遊休区有地を活用した太陽光発電事業
- 区民参加で脱炭素化まちづくりにチャレンジ

住宅都市に断熱対策は不可欠

- 住居の断熱対策は、環境、福祉の両面から急務の課題、杉並区独自の助成制度を

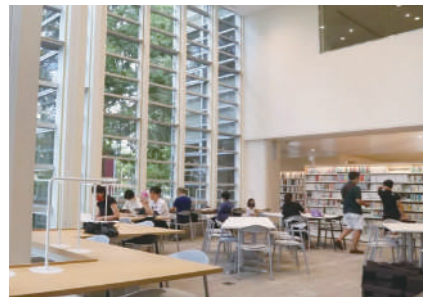
教育・文化・交流

「文化区杉並」にふさわしい教育環境を次世代に！

- 地域で支える杉並の教育環境の充実 — 学校は地域の財産です。
- 次世代育成基金で 次代の子どもたちに夢を
- 文化区杉並らしい環境を整備

陽明文庫との連携強化
京都に次ぐわが国宮廷文化の最大発信拠点へ

台湾との交流事業の推進



田中区政でリニューアルして好評の中央図書館



荻外荘—2024年全面公開



東京高円寺阿波おどりの台湾公演

行政

国・都・区の連携と公益事業体の協力

区役所や税務署、都税事務所が一緒があると便利です！

- 老朽化する官公庁の再編で区民サービスの向上を
- 災害時の電気・ガス・水道の復旧情報を区民と情報共有できるように
電気・ガス・水道事業者等の公益事業体と連携



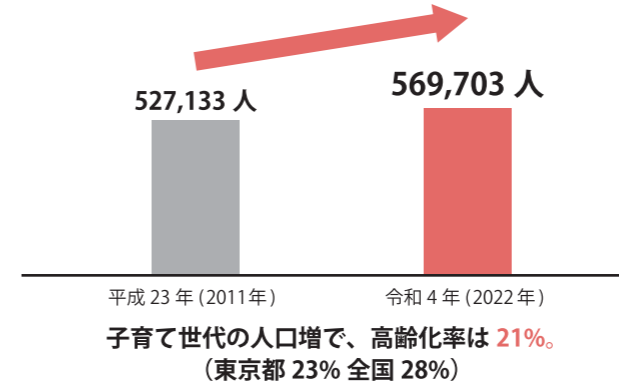
「区民福祉の向上が第一」を掲げ、行政サービスを向上

—数字とグラフで見る田中区政12年間の実績—

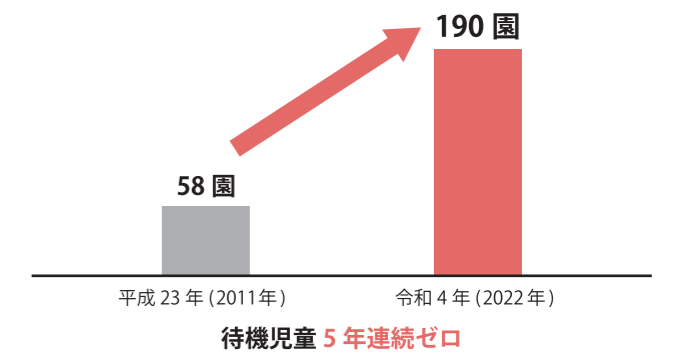
十数年前、杉並区は人口が50万人を切り、高齢化が大きく進むと予想されていましたが「区民福祉の向上が第一」を掲げた田中区政の12年間で行政サービスは大きく向上し子育て世代の流入で人口は増加し、高齢化は全国平均を大きく下回り、質の高い住宅都市として発展してきました。



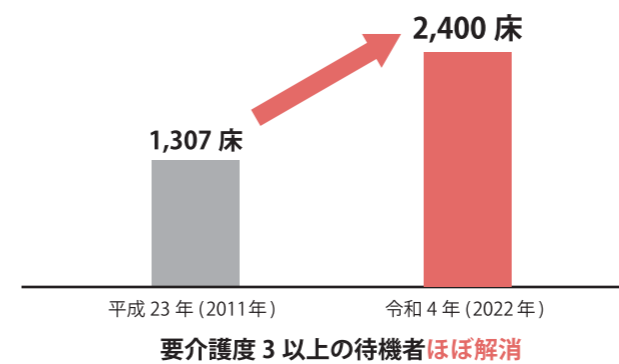
人口



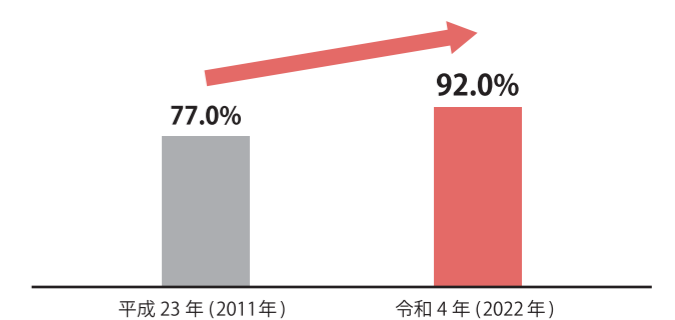
子育て〈認可保育所〉



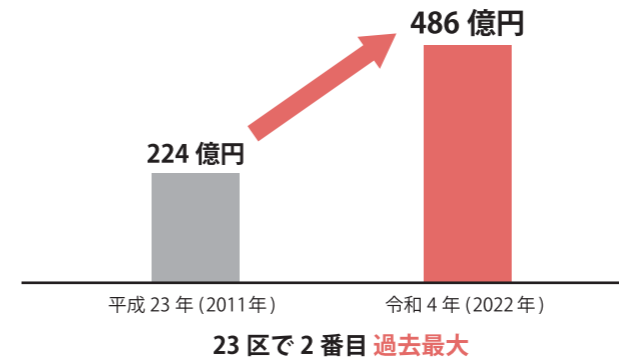
福祉〈特別養護老人ホームベッド数〉



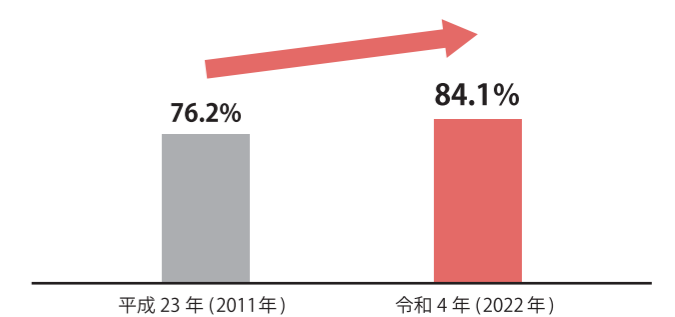
防災〈区内建築物耐震化率〉



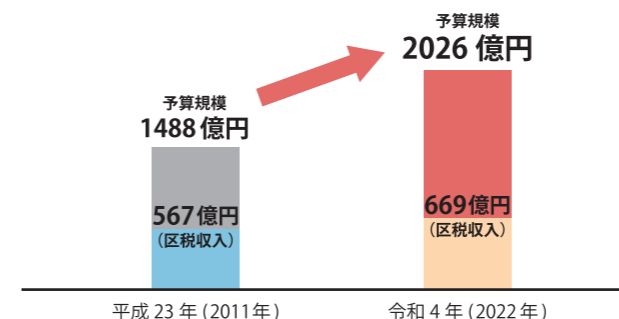
財政〈財政調整基金〉



区民の区事業・サービス満足度



区税収入と財政規模〈予算規模(うち区税収入)〉



区税収入の伸びは18%にもかかわらず、国や都の支出金は36%の伸び、国や都の支出金を活用して予算規模を増額して区民サービスを向上(数字は、各年度の当初予算)

区民の良識と英知で明日の杉並区を築こう！

杉並区は、日本有数の住宅都市です。
杉並区民の良識と英知を結集し、住宅都市杉並区の価値を高め、
次世代に誇れる輝かしい明日の杉並区を築いていこう！



前杉並区長 **田中良**

前杉並区長

田中良 プロフィール

杉並の勇氣

昭和 35(1960) 年杉並区生まれ

杉並ひまわり幼稚園、杉並区立桃井第五小学校

獨協中学・高等学校、明治大学政治経済学部卒業

(株)テレビ東京入社

平成 2 年 衆議院選挙出馬するも惜敗

平成 3 年 杉並区議会議員選挙に最年少・最高得票当選

平成 5 年 東京都議会議員選挙当選 以後連続 5 期当選

平成 21 年 東京都議会議長就任 (48 歳 就任時歴代最年少)

平成 22 年 杉並区長に当選

平成 26 年 再選 (2 期目)

平成 30 年 再選 (3 期目)

令和 4 年 区長選挙で 187 票差で惜敗

杉並を良くする会の目的

- 田中良の活動を真剣に応援する。
- 田中良の活動をより多くの杉並区民にアピールする。
- 杉並区の未来のため、地域の発展に貢献する。

会費

- 一口年間 1 万円

※大変恐縮ですが、個人でのご入会のみとさせていただきます。
(寄付金控除の対象にはなりません)

会費のお振込み

- みずほ銀行 荻窪支店
普通 2833306
杉並を良くする会
- 郵便振替口座
00190-9-358587

編集・発行 **杉並を良くする会** 令和6年(2024年)4月

〒167-0022 杉並区下井草 5-10-23 田中良事務所内

[TEL] 03-3301-3301 [FAX] 03-3301-3360

[Mail] tanakaryo@tanakaryo.com [HP] <http://tanakaryo.com/>



HP



Facebook



X